

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.12) 平成24年度:132～135.

在宅医療における特定看護師の役割

日野岡蘭子

# 在宅医療における 特定看護師の役割

旭川医科大学病院 看護部

日野岡蘭子

# 褥瘡における在宅ケア

- 現在褥瘡に関しては専門の教育を受けた看護師が訪問に同行することで診療報酬
- ここで期待されていることは、在宅褥瘡で、医療機関と同等の質の高いケアの提供である
- 今後、考えていかなければならないことは、在宅ケアに従事する医療、看護、介護職への啓蒙と教育である。

# 旭川医科大学病院

地域の中核をなす特定機能病院

• 看護職員数 675 名

・ 7対1看護

診療科

• 内科(循環器・呼吸器・腎・代謝・消化器・血液)

• 外科(心臓/血管・呼吸器・腫瘍・消化器/一般・腎/泌尿器・整形  
頭頸部・歯科/口腔・脳神経・小児)

• 眼科

• 周産母子

• 女性生殖器

• 皮膚

• 精神神経

• 小児(新生児・発達・血液・感染)

\* 形成外科はないため、虚血肢の創はすべて血管外科で管理している。

病床数602床

平均稼働率 86%

平均在院日数14.8日

# 心臓血管外科病棟

## 患者の特徴

- ・他施設で下肢切断を宣言され、救肢の可能性を求めて来院もしくは紹介
- ・入院時既に重症下肢虚血の状態
- ・血行再建術が最優先

術前、重症下肢虚血で入院あるいは転院する患者は、既に深い潰瘍を発症しているケースが多い



# 重症下肢虚血の創傷管理における (特定)看護師としての役割

- ① 重症虚血の術前の患者に対して、新たな創をつくらぬよう細心の注意を払って予防的フットケアを実施すること
- ② 血行再建術後、また筋皮弁を行った患者に対して、術後の創傷管理を行うこと
- ③ 術後の患者に対して、創が治る状態をイメージし、歩くことを目標とし予防的フットケアを行うこと
- ④ 在宅への移行に向け生活状況に即した指導を行うこと
- ⑤ 適切な自己管理(糖尿病のコントロール、透析の自己管理)が実施できるよう患者教育を行うこと
- ⑥ それぞれの実施項目について、必要なリソースを検討し調整すること

- ① 重症虚血の術前の患者に対して、  
新たな創をつくらないよう細心の注意を  
払って予防的フットケアを実施すること

## 術前患者の爪の状態

- ・巻き爪処置を実施した後潰瘍形成



両側膝下以下の動脈触知なし

# どこに問題があるのか

本人：足を守る認識不足

家族：介護力不足

こうなる前に何とかできなかつたのか。



在宅ケアへの介入が必要

誰がどのような役割を担うべきか



# 大学病院で何ができるのか

- ・旭川医科大学は地域医療連携を行っているが、訪問看護部門を持っていない



褥瘡ケアに関して、訪問看護に同行することによって診療報酬を得ることが可能



このことにより訪問事業を展開するためのシステムを構築するより早く、在宅へ介入可能となった

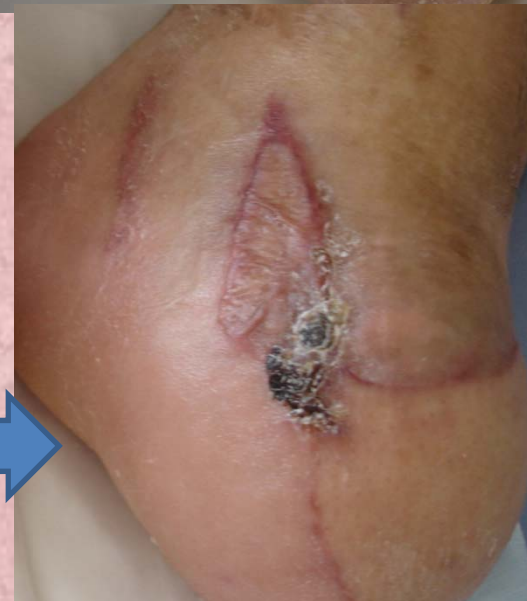
フットケアに対しても同様にできないか・・・

大学病院は来る患者を待つのではなくスクリーニングの段階から参加することが求められていくのでは

## ② 血行再建術後、また筋皮弁を行った患者に対して、術後の創傷管理を行うこと



この直下にグラフト



植皮後  
スキンケア(保湿)

## 必要なこと:

- ・創傷管理: 植皮を検討
  - ・褥瘡回診枠での皮膚科医への介入を提案。
  - ・血管外科医へメリットを説明
    - 局所麻酔、ベッドサイドで実施可能—低侵襲
  - ・予防的フットケアの実施
    - 創周囲皮膚の清浄化とそのセルフケア
- ・リハビリテーション: 歩行訓練
- ・フットウェア



③ 術後の患者に対して、創が治る状態をイメージし、歩くことを目標とし予防的フットケアを行うこと

ある患者の装具





# 装具

装具制作は札幌もしくは本州から不定期に来院

: 作成までに時間がかかる

: 靴は造らないため、装具装着したままで履ける  
靴を自分で探さなければいけない

患者: 「思ったよりごついな、これじゃ靴買い替えないと  
いけないよな、今までの靴じゃ入らない」

地域格差の解消は可能か？

④ 在宅への移行に向けて、生活状況に即した指導を行うこと

⑤ 適切な自己管理（糖尿病のコントロール、透析の自己管理）が実施できるような患者教育を行うこと

新たな創を造らない

治癒した創の搬痕を保護する

自宅での予防的フットケアの継続

自宅での血流確認の継続

# 在宅での創傷管理の体制が

確立されると、創を持ったまま退院し、自宅での創傷管理が可能となる

在院日数短縮

より重症な患者の入院を優先できる

現状から検討すると可能なのか



# でもその前に





# 中断すると

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19中断	20中断
21	22	23	24	25中断	26	27
28終了						

疼痛・不穩のため一時中断、外泊のため中断  
ということはありませんか？

25日間しかできないことになります。本来28日間できるはず  
やはり在宅で使用できることが必要では？

# 在宅での創傷管理の体制が

確立されると、創を持ったまま退院し、自宅での創傷管理が可能となる

在院日数短縮

より重症な患者の入院を優先できる

現状から検討すると可能なのか



# 褥瘡の場合との比較

## 在宅で創傷を管理するための人・物・金

	ひと	もの	かね
褥瘡	<ul style="list-style-type: none"><li>・訪問看護師の褥瘡に関する知識の啓蒙</li><li>・介護士への褥瘡に関する教育</li><li>・褥瘡の診察・処置がタイムリーにできる医師の確保</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・介護保険利用でのマットレス、車いす用クッションの利用（自己負担軽減）</li><li>・介護力に応じて選択できる介護用品の機能の多様化</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・介護保険でのサービスで利用</li><li>・在宅褥瘡に対して、専門知識を持つ看護師が訪問看護師に同行することでの診療報酬</li><li>・創傷被覆材を自宅で使用する分は自己負担</li></ul>
下肢潰瘍	<ul style="list-style-type: none"><li>・予防的フットケアの知識と技術を持つ看護師の育成</li><li>・糖尿病コントロールや透析管理を含めた予防的フットケアに関する患者教育</li><li>・下肢の血流評価ができる家庭医</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・在宅で創管理のため創管理方法の簡易化</li><li>・症例に応じて在宅で陰圧閉鎖療法管理が可能となれば、早期退院につながる</li><li>・フットウェア作成、調整は在宅でどういう制度化が必要なのか</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・介護保険でのサービスで利用</li><li>・介護保険の非対象年齢では、自己負担が多い</li><li>・創管理のためのガーゼ、テープなどは自己購入</li></ul>

# 生活状況の確認

- ・仕事の有無、復帰の状況、仕事内容(屋内・屋外)
- ・1日どのくらい歩いているのか
- ・日常生活動作の状態(何がどこまでできるのか)
- ・自身の身体の状態の理解度

(どんな状態だったのか)

治療を受けてどのような状態になったのか  
現状維持のために何をすべきなのか)

対象者の行動変容や維持にどう働きかけたらよいか



# 地域性を考慮する必要がある

## 平均気温

	東京	札幌	旭川
12月	12.3	-1.4	-4.2
1月	9.8	-4.6	-8.4
2月	10.0	-4.0	-7.7
7月	29.0	20.2	20.4
10月	21.6	10.8	8.5
積雪	無	95cm (2月)	89cm (2月)

1月17日朝8時半の光景  
病院9階ホールから撮影  
最低気温氷点下18度



出典: 気象庁; 日本の平均気温

## ある患者のエピソード

- ・約40cm(1日)の降雪があり、自宅付近で雪かきをしていた。
- ・膝上までの雪の中で行い、長靴の中に雪が入ったが、そのまま作業を続けた。冷たさは感じなかった。
- ・終了後も濡れた靴下を少し乾かしただけで放置していた。
- ・3日後外来受診した際に、足趾から足底の色調不良を認め、壊死が疑われた

# この事例から考えること

言うのは簡単である…

何故 足を大事にしないのか

何故 濡れたまま放置するのか

背景: 独自の感覚

雪かきは足が冷たいのが当たり前

「家の中が暖かいので、すぐに乾くだろう」

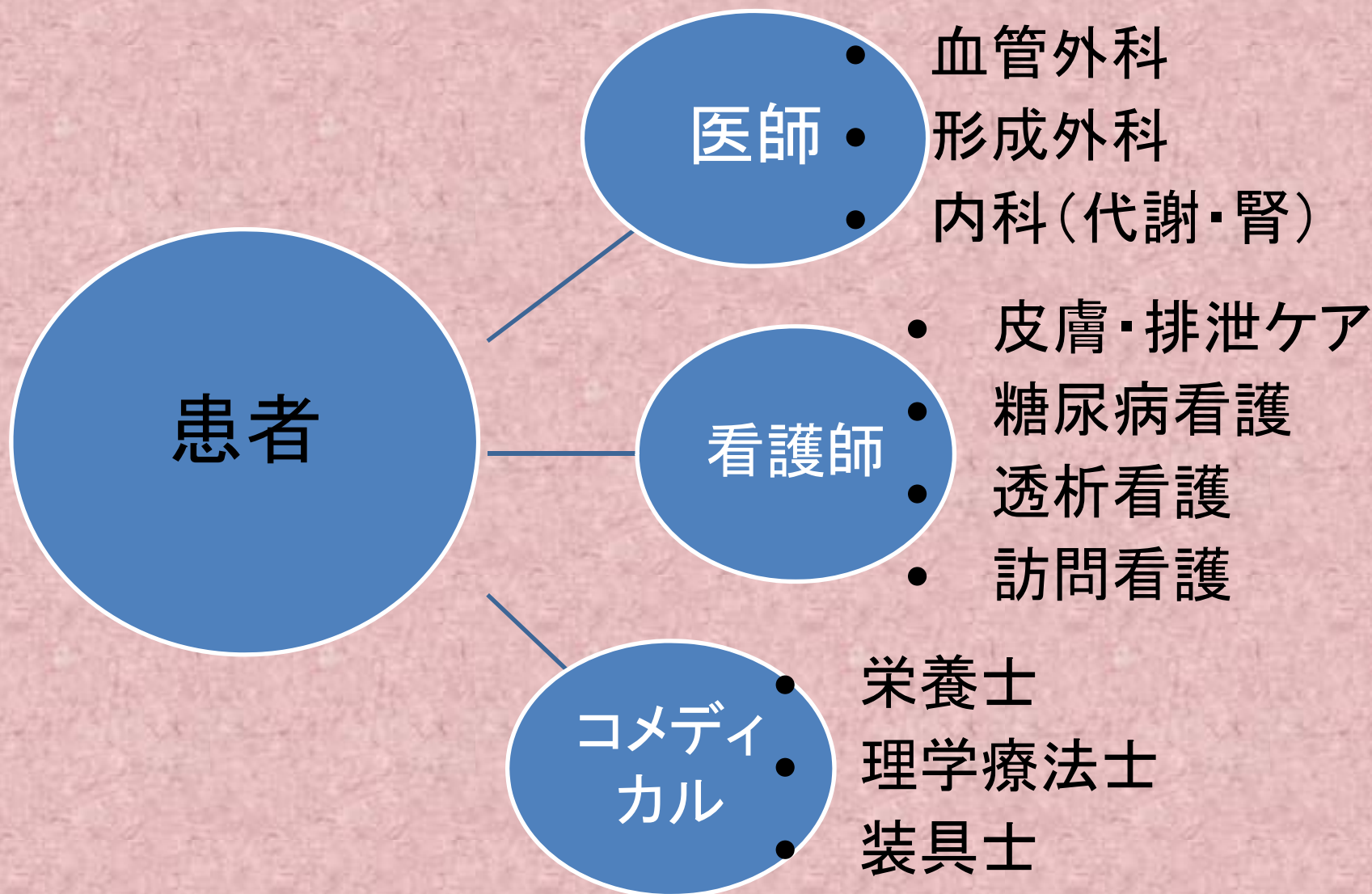
「昔はもっと寒かった」

「雪かきは汗をかくので、すぐに身体が温まる」

どうすれば意識の変革につながるのか



⑥ それぞれの実施項目について、必要なリソースを検討し調整すること





# まとめ

- ・重症下肢虚血に至る前に、在宅で可能な予防的フットケアの技術と知識の啓蒙が必要。  
そのために、訪問看護師に同行して実施する予防的フットケアに対する診療報酬の確立が望まれる
- ・在宅での創傷管理が可能となる体制が確立されると、在院日数はさらに短縮される。  
在宅ではどんな管理が可能なのか、見解をまとめていくことが必要である